

音源の位相チェック実験(2)  
—アナログ再生における確認(2)—

1. はじめに

前報(1)に引き続き、アナログ盤の位相について確認します。

2. 音源の位相チェックの試聴方法

前報(1)同様、位相反転のバランスケーブルを使用します。

今回のシステムはフォノイコとして、**Brooklyn DAC+**を使用しており、現在は出力にアンバランス接続をしています。バランス出力がありますので、これを利用します。

**MySonic Signature Gold(LP-12/Glanz MH-9Bt) → 【MM ポジション入力】  
→ Brooklyn DAC+ → しなの音蔵フェーダー**

以上の経路で、**Brooklyn DAC+ → フェーダー**は通常、**Brooklyn DAC+**のアンバランス出力端子を使用していますが、バランス出力端子に替えて、アンバランス RCA ケーブルを次のように接続をします。

**Brooklyn DAC+ バランス出力端子 → バランス／アンバランス変換プラグ  
→ アンバランス RCA ケーブル (写真左)**

**Brooklyn DAC+ バランス出力端子 → 位相反転のバランスケーブル  
→ バランス／アンバランス変換プラグ → アンバランス RCA ケーブル (写真右)**



試聴は各種アナログ盤をかけ替えながらバランスケーブル挿入のあるなしで試聴していきます。

### 3. 音源の位相チェックの試聴結果

音源としては、前報(1)の再現を採る意味から、同様に各種レーベルを揃え、また、盤の製作箇所が異なるものを含めるようにしました。

バッハ：チェンバロ協奏曲 ピノック指揮 English Concert ARCHIV 28MA 0020

日本 POLYDOL 盤

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位がしっかりして音像が明瞭になる。

挿入無では、広がり感はあるが、定位が曖昧になり、楽器の音がぼやける。

バッハ：Ein Feste Burg ist Unser Gott

Mauersberger 指揮ライブチッヒゲヴァントハウス

ARCHIV 198407 DG Hamburg 製造盤

ARCHIV 198407 Muenstermann-Druck Hanover 製造盤

DG Hamburg 製造盤は位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位が曖昧になり、歌詞と伴奏のファゴットの音色が少し曖昧になる。

Muenstermann-Druck Hanover 製造盤は、位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位がしっかりして、歌詞が明瞭になり、伴奏のファゴットの音色も明瞭になる。

合唱の部分を聴いたが、システムのグレードが上がったので、前報(1)より定位の判定は容易になり、復刻の Muenstermann-Druck Hanover 製造盤とオリジナルの DG Hamburg 製造盤は位相反転のバランスケーブルの挿入の傾向が違うようである。

ファリャ：三角帽子 アンセルメ指揮スイスロマンド

ESOTEC リマスター盤 ESLP-10003

LONDON 盤 SLC-1138

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、ともに広がり感はあるが、定位が曖昧であり、挿入無では、定位がしっかりして音像が明瞭化する。

ラヴェル：ボレロ ミュンシュ指揮ボストン交響楽団

RCA RGC-1021

日本ビクター製作盤

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、広がり感はあるが、定位が曖昧である。

挿入無では、定位がしっかりして音像が明瞭化する。

ヴィヴァルディ：チェロとクラブサンのための 6 つのソナタ

ERATO ERX-2212

日本 RVC 製作盤

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、音像が明瞭化し、チェロの質感向上が認められ、挿入無では、音像が曖昧になる。

R.シュトラウス：ドン・ジュアン プレヴィン指揮ウイーンフィル

EMI EAC-90038

東芝エンジェルサンプル盤

位相反転のバランスケーブルの挿入有で、定位が向上し、音像が明瞭化する。  
挿入無では、音像が曖昧になる。

モーツァルト：ピアノ協奏曲 23 番 ポリーニ&ベーム指揮ウイーンフィル

DG UCLG-9008 (重量盤)

Polydol International GmbH Hamburg; Universal Music 2007 盤

DG MG1038

日本ポリドール盤 SE-7612

Polydol International GmbH Hamburg の方は、位相反転のバランスケーブルの挿入有で、音が薄くなってメリハリが消え、定位も甘くなる。総じて重量盤のメリットはあまり感じられない。挿入無の方が、音に芯が出てくる。

日本ポリドール盤の方は、位相反転のバランスケーブルの挿入有で、音が薄く、メリハリが消える。挿入無の方が、音に芯が出てピアノの輝きや押出も良い。

#### 4. まとめ

前報(1)よりシステムのグレードが上がり、判断の仕方にもお慣れたこともあって、スムーズにテストが進行しました。ソロや小編成のアンサンブルでは、判断が容易であり、大編成ものでマルチマイクの録音と思われるものは、広がり感が出た場合に迷うこともあります。

バランス／アンバランスの変換など、系が複雑なので、音源自体の正相逆相を判定するのは控えますが、位相反転のバランスケーブルの挿入有無で音の変化があり、挿入有無で定位などが良い方向と悪い方向が盤によって変わってくることは間違いないさそうで、方向性の判定は前報(1)の結果が覆えることはありませんでした。

音質の判定には好みも入りますので、客観性を持たせることから、このような問題が本当にあるかどうか、第三者にもテストを依頼してみたいと思っています。

以上